

第57回 炎症性腸疾患のくすり

炎症性腸疾患（IBD）は、長期間にわたって下痢や血便が続く原因不明の難病のことであり、具体的な病名としては潰瘍性大腸炎やクローン病がこれにあたります。中には腸結核や腸管ベーチェットを含む場合もあります。炎症性腸疾患は若い世代に起こることが多く、悪化したり・落ち着いたりを繰り返します。一度発症すると完全に治せる方法はありませんが、多くの人で病気を落ち着かせて日常生活が送れるようになってきています。しかし、中には強い治療法や手術が必要な例も存在します。

炎症性腸疾患は欧米に多いとされてきましたが、近年日本でも患者数は急速に増加傾向になっています。現職の総理大臣である安倍晋三首相は潰瘍性大腸炎であることは有名な話です。

炎症性腸疾患の原因はよくわかっていないのが現状なのですが、おそらく免疫機能の異常が関係していることはわかっています。そのため、治療では主に異常になった自分の免疫機能を抑える作用を持ったくすりが使用されます。初めに使われるのが「ペンタサ」や「アサコール」に代表される、5-アミノサリチル酸を主成分とするくすりです。以前は「サラゾピリン」に代表されるサラゾスルファピリジンが使われていたのですが、アレルギーや男性不妊の原因になるなどの副作用があるため、体に吸収されづらく直接腸管に届く工夫を施したペンタサやアサコールが主に使用されています。また、これらのくすりで効かなくなったり、抑えきれなくなったりする場合には、より免疫を強力に抑えるステロイドや免疫抑制剤が使用されるようになります。炎症性腸疾患のうち、潰瘍性大腸炎では大腸のみに炎症が起こるため、飲み薬ではなく注腸や坐剤で治療を行う場合もあります。

それでは当院に採用されている、主に炎症性腸疾患に使用される代表的な3剤についてみていきましょう。

ペンタサ：主成分であるメサラジンの化学名 5-Aminosalicylic acid に由来しており、ギリシャ語を語源とする5番目を意味する接頭語の Penta と Aminosalicylic acid を合わせて Pentasa と命名

アサコール：5-アミノサリチル酸（5-aminosalicylic acid:5-ASA）の略号である“ASA”と大腸の英語 colon の最初の3文字“col”を組み合わせて命名された

サラゾピリン：Salazosulfapyridine に由来

次回は治験のくすりです。